



# 島根半島・宍道湖中海 ジオパーク通信



出雲国風土記の  
自然と歴史に出合う大地

2022.12  
Vol.3

赤浦海岸清掃／ジオサイト見どころ紹介、稻佐の浜  
日本ジオパーク全国大会白山手取川大会／全国研修会 in 栗駒山麓  
島根半島四十二浦巡り再発見研究会／山陰海岸ジオパーク紹介  
桂島定期ガイド報告／ジオブランド商品紹介／島根半島の正月行事

1  
2  
3  
4

## 佐香コミュニティセンターから



出雲市佐香コミュニティセンター  
センター長

**服部 昌幸さん**

10月29日に赤浦海岸の清掃を行いました。赤浦海岸は多様な色合いの拳大の石が広がる礫浜海岸です。なかでも黄褐色から淡赤色の流紋岩円礫が全体の7割を占め、海水に濡れるとその名の通り赤色が鮮やかに映える浜ですが漂着ごみが多いのが悩みです。今回は島根半島をトレールランされる皆さんを中心とした15名（+幼児2名）で、マイクロプラスチックの素となる

発泡スチロールやペットボトルを中心に回収しました。中心メンバーの足立滋さんは「自分たちの走るコースがごみだらけなのは嫌なので、気持ちよく走るためにボランティアで回収を行っています」と言われ、ジオサブの環境保護に貢献されています。

佐香コミュニティセンターでは毎年5月に「わがまちパワースポット探訪」としてジオサブ赤浦海岸や立石神社、中国自然歩道を巡るツアーを開催しています。毎回70～80人が参加する佐香地区の一大イベントで、当日は地区的ボランティア会女性部のメンバーが参加者の弁当を作ります。小鯛の佃煮、サメのなます、猪の角煮、ワカメ汁など佐香自慢の手料理がふんだんに詰められた弁当は毎回大好評です。最近はジオサブを訪れる人も増えてきましたので、皆さんに気持ち良く散策してもらえるよう、地域の子どもたちや今回のように有志の協力を得ながら随時清掃活動を行っています。今後も地域を元気にする活動、地域の素晴らしさを知ってもらう活動に取り組んでいきます。

赤浦海岸をみんなで  
掃除したぞ!!

©DLE



### 赤浦海岸清掃とジオパーク活動について



赤浦での清掃活動。海岸東側奥の岩陰に多くの漂着ごみが溜まっています。

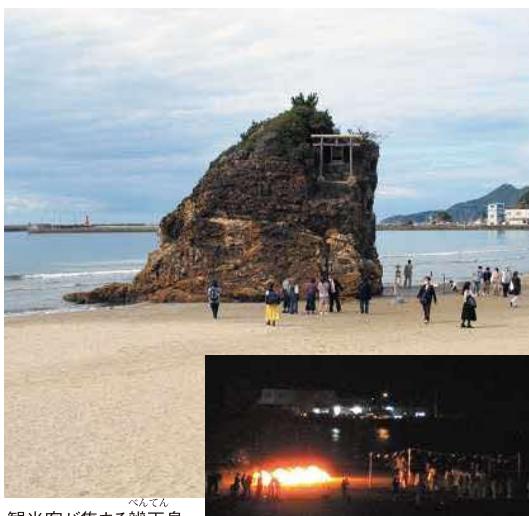


流紋岩などの円礫が幅 150m の海岸を占める赤浦海岸



ジオパークの見どころ、  
ジオサイトをご紹介!

### ジオサイト見どころ紹介 シリーズ3 稻佐の浜 (いなさのはま)



観光客が集まる辨天島

11月3日に行われた「神迎神事」

出雲大社から西に1kmほど向かうと日本海。美しく広がる白砂の海岸は出雲神話「国譲り」の舞台として知られる稻佐の浜です。大国主命に国を譲るよう差し向けられた武甕槌神が降り立った伊耶佐（いざさ）の小浜がこの地名の起源とされ、出雲大社の主要な神事のひとつ神迎神事が執り行われるところもあります。神迎神事は全国の八百万の神々が出雲大社に参集して会議をされる「神在祭」の始まりを告げる神事で、旧暦10月10日の夜、稻佐の浜にかがり火をたき、ひもろぎ\*に神々を迎え、白装束の神官たちが厳かに神々を出雲大社十九社へとご案内するものです。

稻佐の浜でひときわ目を引くのが浜の中央にどんと置かれたような辨天島です。インスタ映えや、昨年公開されたアニメーション映画『神在月のこども』などで観光客に人気のこの島は流紋岩質火碎岩からなり、出雲国風土記記載の門石島にあたります。辨天島の上には海の神の豊玉毘古命が祀られる社があります。稻佐の浜全景を眺めるのなら、阿国通り北側にある奉納山公園がおすすめです。国引き神話で三瓶山を杭にして島を引っ張った綱とされる菌の長浜（長浜海岸）へと続く雄大な景観が眼下に広がります。

\*ひもろぎ：神社や神棚以外の場所で祭祀を行う場合、臨時に神を迎えるために依り代となるもの。

# ジオパーク全国大会に参加しました

10月21～23日に石川県で開催された第12回日本ジオパーク全国大会 白山手取川大会に、本ジオパーク推進協議会から、副会長の飯塚出雲市長はじめ19名が参加しました。全国から784名が参加し、石川県の「かんこ踊り」などの郷土芸能で始まった大会では、「ジオパークはSDGsの教育としてどんな地域学習教材を提供できるか」など6つテーマで開かれた分科会などでジオパーク関係者と意見交換や情報共有をしました。3年ぶりの現地開催で、リアルな質疑応答が刺激的で参考になりました。また、大会の間には、久しぶりに会う方々、初めての方々問わずに、昨年オンラインとなった当ジオパークの全国大会への労いと「行きたかった」という言葉をたくさんいただきました。来年は銚子や伊豆大島、下仁田ジオパークなどで構成される関東ブロックで開催です。



オープニングアトラクションの白峰かんこ踊り  
保存会によるかんこ踊り



開会式での古川隆三郎日本ジオパークネットワーク理事長  
(島原半島ジオパーク協議会会長・長崎県島原市長)挨拶



開会式で長年の功績を表彰される米田徹日本ジオパークネットワーク前理事長  
(糸魚川ジオパーク協議会会長・新潟県糸魚川市長)



分科会の様子



島根大学大学院生のポスターセッション



野外の「いいとこ白山フェア」



交流会はコロナ対策として二つの会場をオンラインでつなぎで開催した



島根半島・宍道湖中海ジオパーク  
参加者の集合写真

## 栗駒山麓ジオパークの全国研修会に参加して



出雲国ジオガイドの会  
**前田みのりさん**

令和4年11月21日～23日の3日間行われた、第17回日本ジオパークネットワーク全国研修会in栗駒山麓に参加しました。

テーマは“守ることで地域を発展させる—ジオパークにおける地質遺産の保全と活用を考える—”。私が参加した経験者コースでは経年変化の激しい地質遺産の事例を題材に、“守るためにどのような方法があるのか、そのためには誰の協力が必要なのかを学びました。

その題材は、平成20年岩手・宮城内陸地震に伴って発生した斜面災害の跡地、荒砥沢地すべり地。日本最大級の地すべり地で、地層が分かりやすく露出し、数年の風化による奇岩も立ち並ぶ、迫力のあるジオサイトです。

この地を保全する以前に必要な事は、災害跡地であることを心得ながら被災者の気持ちも尊重することです。ご理解を得たうえで、ジオサイトとして今後保護、保全する方向に進まなければいけません。また、この災害跡地を保全することで、人々の災害の記憶の風化を防ぐこともできますので、二次災害が無いようにしながらも、地球の大きな変動の軌跡を残す方法を慎重に考える必要があります。

幸い、この荒砥沢には集落が無かったです。それを確認した時は少し胸を撫で下ろしました。

今回の研修では栗駒山麓ジオパークのジオサイトの事例を学びながら、最終的にはその場で各チーム決められたジオサイトを題材に保全活動計画を立て、発表をするというもの。6人のチームであれこれ話し合いながら企画を作りました。

その題材は下北半島ジオパークの北部海岸でした。保全の対象は浸食でしたが、それ以前に問題なのがゴミです。島根も他人ごとではありませんね。

誰を巻き込み、何をして、3年後どうなっているか、6人が本気で北部海岸について考えましたので、今度みんなで実際に下北半島に視察に行きましょう!と盛り上がりいました。

最後に、研修会には日本全国のジオパークから参加されているので、皆さんとお話ししているとまるで日本一周旅行に行った気分になれ、楽しかったです。

対面での全国大会開催は3年ぶりです!



©DLE



大会会場である松任文化会館ピーノに入場する全国のジオパーク関係者



©DLE



地層が解り易く露出する荒砥沢地すべり地  
侵食や植物の生育が問題となっている。



各チームそれぞれ与えられたジオサイトの保全計画を審査員に発表し、評価される。



「島根半島四十二浦巡り」を探ってきたぞ!!

©DLE

## 協議会会員の紹介 島根半島四十二浦巡り再発見研究会



島根半島四十二浦巡り再発見研究会  
事務局長

**木幡 育夫さん**

研究会では浦々に遺される言い伝えや行事・祭礼等について資料収集、調査研究をし「四十二浦巡り」の価値や意味を再発見し、この貴重な歴史文化を将来へ継承していく活動をしています。広報誌の発行、バスツアーの開催、巡礼帖用スタンプ設置、ガイドブックやカレンダー制作などが主な活動で、会員の方も研究者、歴史好きの方、探訪ツアーが趣味の方など幅広くなりました。今後も「島根半島四十二浦巡り」の魅力がさらに高まるよう取り組んでいきます。

### スサノオ伝説斐伊川流域を巡るバスツアーを開催!

10月22日に須佐之男命にまつわる神社を巡る「第3回スサノオ伝説斐伊川流域バスツアー」を開催しました。日本最古の三十一文字の歌「八雲立つ~」が須佐之男命・稻田姫命によって詠まれ和歌発祥の地とされる須我神社、須佐之男命終焉の地とされる須佐神社、大土神社・稻生神社、そして須佐之男命の神魂の鎮まる靈地である日御崎神社を巡るコースに14名の方が参加されました。須佐神社では地元ガイド高橋さんに一時間かけて境内を案内していただき、ていねいな解説により須佐之男命についての見識を深くすることができました。参加者も熱心に話を耳に傾け写真を撮るなどして、充実した時間を過ごせたようです。

私たち「島根半島四十二浦巡り再発見研究会」は國學院大學歴史学博士関和彦氏(故)を座長に平成22年3月に設立し、現在は会長 飯塚大幸(一畑薬師管長)のもとで94名の会員で活動しています。島根半島には古くから汐汲みをしながら出雲大社から美保神社に至る四十二の浦々・神社を巡る「四十二浦巡り」という信仰習俗があります。江戸時代末期に盛んに行われていたということですが、いつ、何のために始まったかは不明です。当研究会では浦々に遺される言い伝えや行事・祭礼等について資料収集、調査研究をし「四十二浦巡り」の価値や意味を再発見し、この貴重な歴史文化を将来へ継承していく活動をしています。広報誌の発行、バスツアーの開催、巡礼帖用スタンプ設置、ガイドブックやカレンダー制作などが主な活動で、会員の方も研究者、歴史好きの方、探訪ツアーが趣味の方など幅広くなりました。今後も「島根半島四十二浦巡り」の魅力がさらに高まるよう取り組んでいきます。



須佐神社（出雲市）で現地ガイドの解説を聞くバスツアー参加者の皆さん

## 山陰海岸ジオパーク紹介



玄武洞

玄武洞の柱状節理

全国のジオパークを紹介するぞ!  
こんどは山陰海岸だ!



青龍洞

“山陰”というと、島根県も含まれるのでは?と感じる方も多いのではないでしょうか。しかしながら、山陰海岸ジオパークは“山陰海岸国立公園”を主体としたジオパークであるため、京都府、兵庫県、鳥取県で構成されるジオパークとなっています。

そんな山陰海岸ジオパークで一番の見どころはといえば兵庫県の「玄武洞」です。玄武洞は、火山噴火に伴う自然現象によって作り出された幻想的な景観だけでなく、1920年代に京都大学の松山基範教授によっ

て地球磁場の逆転現象という世界的な大発見につながった場所でもあります。今年10月には、その世界的な地球科学発展への貢献が認められ、国際地質科学連合(IUGS)による「The First 100 IUGS Geological Heritage Sites(世界の地質遺産100選)」にも選定されています。今年9月にリニューアルもされた玄武洞公園、ぜひみなさんも一度訪れてみてはいかがでしょうか。



## 桂島定時ガイドの結果報告

出雲国ジオガイドの会では、松江ビズターセンターから桂島を探訪する初めての定時ガイドを10月の土日に8回開催しました。その結果、定時ガイドには56名が参加し、また同時に実施した桂島謎解きラリーには214名の参加があり、たいへん盛況の内に終わりました。今回の定時ガイドの成果を今後のジオガイド活動に活かし、地域と連携して活動を充実させていくそうです。

ジオガイドから説明を聞く参加者の皆さん、ガイドは出雲国ジオガイドの会の召古会長



## ご存知ですか、ジオブランド商品

ジオブランドは、ジオの恵みをベースに伝統文化、環境保全といったストーリー性のある地元産品(食品・酒類・茶・香水など)をジオパークブランドとして認定し、ホームページやジオパークネットワークなどを通じて内外に広く発信するものです。



### 片匁のお母さんたちが手づくり、茎味噌とめかぶサラダ わかめの里片匁こいグループ



有限責任事業組合  
わかめの里片匁こいグループ  
代表 **山本 建夫さん**

鹿島町片匁地区は入江から山へと続く急斜面に家々が軒を連ねる島根半島の町で、古くから良質なわかめを産出する「わかめの里」として知られています。港から500mほど沖合で養殖されるわかめは「片匁わかめ」と呼ばれ、最盛期には地区の半数の家がわかめ漁や加工に取り組んでいましたが年々減少し、今ではわずか6軒の生産者となりました。人口減少とともに片匁わかめも無くなってしまうと危機感を覚えた有志が平成23年に立ち上げたのが「わかめの里片匁こいグループ」です。代表の山本さんは「わかめ生産者を応援する気持ちと、せっかく地元に良いものがありますからこれをどう活かすか、みんなで取り組む場になれば」と設立のきっかけ

を話してくれました。現在は10人(うち女性8名が加工生産を担当)のメンバーで活動されています。

片匁わかめは冬の日本海の荒波の中、早い潮の流れにもまれて育ち、2月中旬から5月にかけて収穫されます。葉の部分は名産「板わかめ」に、そして希少部位の茎やめかぶは「わかめの里片匁こいグループ」が地元産・無添加・手づくりにこだわって開発した「茎味噌(しょうが味・にんにく味)」と「めかぶサラダ」になります。「茎味噌」は味噌と茎をじっくり時間をかけて練り上げたものでどんな料理とも相性抜群の万能味噌に、「めかぶサラダ」はめかぶにすりおろし玉ねぎ、あご出汁などを加えた風味豊かでクリーミーな味わいが特徴です。

山本さんは「片匁の海は豊かで、わかめだけでなく海苔やひじき、サザエやアワビも多く海の恵みは最高です。それをどう活かすかが大切で、海の恵みと人との関わりをもっと良いものに出来れば片匁地区は良くなると思います」と言います。片匁に「恋、来い」という意味から付けられたグループ名。地域に誇りを持ち、海の恵みに感謝するみなさんの地域愛が伝わってきた取材でした。



地区の中学生が作った  
キャッチフレーズを看板に

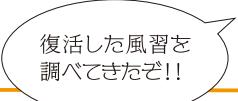


手づくりのめかぶサラダと茎味噌

## 島根半島の正月行事から

### 美保関の餅花木飾り

正月用につき上がった餅を細長く棒状に伸ばし1cmほどの大きさに切り分けたものを、福木(クロモジ)の枝の先々に付けると、枝もたわわに白い花が咲いたような福々しい飾り物となります。美保関地区でかつて「五穀豊穣の他、邪気を振り払う」と各家庭に普及していた餅花木飾りの風習です。いったんは廃れていましたが6年前に復活。旧正月に青石畳通りの軒先などに飾り付けられ、楚々とした縁起飾りとして親しまれています。



©DLE



写真提供 / 松江観光協会美保関町支部

### 編集後記

この秋、コロナ対策の緩和によって行動制限もない社会生活となり、当方の観光地にもお客様の姿が多くなりました。6~8割回復してきたのではないかと感じます。ジオガイドの依頼も少しづつ増えており、待ちに待った活躍の時期がやって来た感じがします。コロナで普及したオンラインでのジオツアーやジオ学習できる機会は増えており、この冬は暖かく籠って日本のジオパークを楽しんでみませんか。来年は卯年、ジャンプしたいですね。

T·M

発行者：島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会

[松江市役所 ジオパーク推進室]

〒690-8540 島根県松江市末次町 86 番地  
TEL : 0852-55-5399 FAX : 0852-55-5070  
E-mail : kuniibiki-geopark@city.matsue.lg.jp

[出雲市役所 政策企画課 ジオパーク係]

〒693-8530 島根県出雲市今市町 70 番地  
TEL : 0853-21-6612 FAX : 0853-21-6752  
E-mail : seisaku@city.izumo.shimane.jp



島根半島・宍道湖中海ジオパーク

日本ジオパークネットワーク